総合的な学習の時間（小・中学校）

学習評価で大切にしたいこと

各学校で総合的な学習の時間の目標を定める意味

各学校の置かれている状況、実態は様々です。各学校が、児童生徒に育てたいと願う資質・能力を具体的に描き、言葉にすることが求められています。小学校は中学校との接続、中学校は義務教育の最終段階であることを意識して、目標を定めることが大切です。

学習活動を探究のプロセスとする

学習活動を①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の一連の探究のプロセスとします。児童生徒が主体的に探究のプロセスを繰り返すことができるような単元を構想し、資質・能力の育成につなげていくことが大切です。

学校において定める目標・内容の設定と学習評価

学習指導要領には、どの学年で何を指導するのかという内容が明示されていません。そこで、各学校は学習指導要領が定める目標を踏まえ、**各学校の総合的な学習の時間の目標**及び**内容**、評価の観点の趣旨を定めます。総合的な学習の時間では各学校が定めた「内容」がそのまま「内容のまとまり」となります。目標の達成状況を判断するための「内容のまとまりごとの評価規準」は、「内容のまとまり」に記載した文章を活用し、妥当性のある評価のよりどころとします。

各学校における総合的な学習の時間の単元作成までを、次の STEP 1 ～ STEP 5 の手順で説明します。

学習指導要領の「第1の目標」　**各学校における教育目標**

↓

各学校において定める目標

「第１の目標」の二つの基本的な考え方

・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して

・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す

(1) 知識及び技能

(2) 思考力、判断力、表現力等

(3) 学びに向かう力、人間性等

「第1の目標」の構成に従い、以下の二つを踏まえて適切な分量で記載する。

①「第1の目標」に示された二つの基本的な考え方

②育成すべき資質・能力の三つの柱である(1)～(3)の趣旨

↓

各学校の「評価の観点の趣旨」を作成

↓

各学校において定める内容（＝「内容のまとまり」）

目標を実現するにふさわしい**探究課題**

探究課題の解決を通して育成を目指す**具体的な資質・能力**

知識及び技能　思考力、判断力、表現力等　学びに向かう力、人間性等

＊他の教科はここまでが示されている

↓

「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

知識・技能　思考・判断・表現　主体的に学習に取り組む態度

↓

単元

STEP 1

「第１の目標」と「各学校における教育目標」から、**各学校の総合的な学習の時間の目標**を定める。

Point 各学校が大切にしたいことを、目標の要素のいずれかを具体化、重点化したり、別の要素を付け加えたりして、分かりやすい表現で盛り込み、校内で議論を尽くし共有することが大切です。

STEP 2

各学校で定めた目標のうち、(1)～(3)の記載の文末表現を変えて「評価の観点の趣旨」を作成する。

STEP 3

各学校で定めた目標と評価の観点の趣旨を踏まえて、**各学校の総合的な学習の時間の内容**を定める。

STEP 4

各学校で定めた内容をそのまま「内容のまとまり」とし、具体的な資質・能力のそれぞれの記載の文末表現を変えて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

STEP 5

内容から単元の目標と単元の評価規準を作成し、授業を実施する。

単元の評価規準の作成のポイント

ここでは前頁の STEP 5 の詳細を述べます。**単元の評価規準**の作成に当たっては、各学校で定めた目標及び内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成された**単元の目標**を定めることが大切です。

単元の目標は、どのような学習を通して、児童生徒にどのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確に表現したものであり、単元の目標から単元の評価規準を作成します。以下に事例を示します。

事例：小学校第６学年「地域の絆を再生しよう」

◇　**単元の目標（例）**

少子高齢化や核家族化を背景に、さみしさを抱えながら暮らす高齢者の孤独の解消に向けて活動することを通して、（学習対象に関する記載）
高齢者の暮らしを支える取組や人々の思いに気付き、（知識及び技能に関する記載）
高齢者の暮らしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考えるとともに、（思考力、判断力、表現力等に関する記載）
学んだことを自らの生活や行動に生かそうとする。（学びに向かう力、人間性等に関する記載）

◇　**単元の評価規準（例）**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔設定例〕 ・高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていることを理解している。 ・「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法が分かっている。　等	〔設定例〕 ・高齢者の孤独解消のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ・伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。　等	〔設定例〕 ・活動を通して、自分と身の回りの高齢者との関わりを見直そうとしている。 ・課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。　等

Point 実際の探究的な学習場面を想起し、単元の目標に示した資質・能力をより明確にして評価規準とします。設定例のように、各観点に即して実現が期待される児童生徒の姿をイメージして、明示します。

学習活動の展開においては、目標の資質・能力が育成されるように、児童生徒が自ら課題を解決する過程を想定して、各教科のように指導と評価の計画を立てます。指導と評価の計画に従って授業を実施する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が児童生徒から提案される場合等も考えられます。そのような場合は、学校が定めた目標と照らし合わせ、適宜計画を見直す等、柔軟性や弾力性をもつことも大切です。

総合的な学習の時間の学習評価のポイント

総合的な学習の時間における児童生徒の学習状況の適切な評価のために、次の点に留意する必要があります。

信頼される評価のために	多面的な評価のために	学習状況の過程を評価するために
・指導する教員間において、評価の観点や評価規準を確認する。 ・年間や、単元等の内容のまとまりを通して一定程度の時間数の中において評価を行う。　等	・発表の表現による評価、ポートフォリオを活用した評価等、多様な評価方法を組み合わせる。 ・成果物の出来映えをそのまま評価するのではなく、どのような探究の過程を通して学んだのかを見取る。等	・評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中に適切に位置付けて実施する。 ・一人一人が学習を振り返る機会を適切に設け、個人として育まれるよい点や進歩の状況を評価する。　等

Point 指導要録においては、総合的な学習の時間に行った「学習活動」及び各学校が定めた評価の「観点」を記入します。そして、その観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合等にその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。

学習活動	観　点	評　価
地域の絆を再生しよう	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	地域の高齢者とその暮らしについて、理想と現実との隔たりから課題を設定し、解決に向けて学級で取り組む「地域の茶の間」の提案を行った。

指導要録（「学習活動」「観点」「評価」）の記載例

特別の教科　道徳（小・中学校）

学習評価で大切にしたいこと

学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価

授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価します。道徳性そのものを評価することはできません。また、教師は指導のねらいや内容に照らして児童生徒の学習状況を把握し、授業改善に生かすことが児童生徒の道徳性を養うことにつながります。

個人内評価として記述による評価

個人内評価は他者との比較によるものではないため、個人の伸びや努力を認めやすくなります。児童生徒が自らの成長を実感して、より意欲的に学習へと向かうための評価です。また、道徳性を養うことを目標とする道徳科では、観点別状況評価や数値ではなく、記述で評価を行います。

指導と評価の一体化

道徳科の評価は、道徳性を養う学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を見取るものです。そのため教師は学習指導の過程で、期待する学習状況を具体的な姿として明確にもち、評価の視点とすることが必要です。道徳科では、自己や人間としての生き方について考えを深めるために、特に次の二つを重視します。

①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

②一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか

学習活動の中で、児童生徒の努力や成長等が見られた場合は、積極的に受け止め、認め励まして次の成長へとつなげます。また、期待する児童生徒の姿が見られなかった場合は授業を見直し改善を図ります。これが道徳科における「指導と評価の一体化」です。

学習評価の進め方

学習評価を進めるに当たっては、評価の妥当性や信頼性を保つため、児童生徒の学びの姿を多面的に見取った評価情報を収集・蓄積し、根拠とすることが必要です。また、蓄積した資料は、児童生徒の更なる成長のために、通知表や指導要録等にどのように記述するのかという方向性を、校内で検討・共有することも大切です。

【道徳科の授業】
- 道徳ノートやワークシート、発言や発話、表現活動等の評価方法を組み合わせ、児童生徒の変容を捉える。
- ファイリング、ポートフォリオ、エピソード記録等で評価情報を蓄積する。
- 一単位時間ではなく、学期や学年等、一定の期間のまとまりで学習状況や成長の様子を評価する。

【通知表や個人面談等】
- 授業の中で見られた学習状況を具体的に記載したり、伝達したりすることで、児童生徒や保護者に成長の様子が伝わるようにする。
- 成長の様子を児童生徒や保護者と共有することで、学習意欲の向上や学習改善につなげる。

【指導要録】
- 年間を通しての児童生徒の学習状況や成長の様子を、蓄積した評価資料を根拠に記載する。
- 記載した事項は、一人一人の成長の過程を校内で共通理解する資料として活用し、次年度へ引き継ぎ、教師の指導に生かす。

Point　適切な評価を行うために

小学校において

児童を伸ばす評価はどのようなものかについて、校内で検討し、各担任が進めている学習評価の情報交換をしたり、成長が見られた児童の姿を共有したりする等、改善につなげていきましょう。

中学校において

指導要録等により小学校の学習状況を引き継ぎ、指導に生かします。また、自分の生き方を振り返り、人間としての生き方への「考えの深まり」が評価できるような授業づくりが重要です。

参考資料:「特別の教科　道徳　評価の手引き」(岡山県教育庁義務教育課　平成30年1月)
https:// www.pref.okayama.jp/uploaded/life/579118_4733422_misc.pdf